2022 年 3 月 17 日

「学長のことば」

中野　敬一

本日、神戸女学院大学をご卒業、ご修了される皆さん、おめでとうございます。
また、インターネットを通じて式を見守ってくださっているご家族、ご関係の皆様、心からお慶び申し上げます。

卒業生の皆さんは努力と研鑽を重ねて今日の日を迎えられました。特に、皆さんの場合、新型コロナウイルス感染症の世界的大流行という予想もしなかった事態において、文字通り「大変な」日々を過ごしてこられました。通常では感じることの無い不安や焦り、苛立ちを覚えることも多々あったことでしょう。それにもかかわらず、各自が奮闘して学びの成果を収められたことに敬意を表したいと思います。試練に耐えて成し遂げたことで自信をもってください。

一方で、コロナ禍が収束に向かったとしても、また新たな困難が私たちの人生の旅路において生じる可能性は低くありません。先行き不透明な時代である、と言われるようになって久しいのですが、世界には直ちに解決できない難題が山積しています。

私たちはそれに立ち向かっていかねばなりませんが、困難を乗り越え、危機を打開する知恵や力が必要です。とくに多面的なものの捉え方や多角的な視点が重要であることを皆さんもあらためて実感しておられることでしょう。また、その際には自分のためにだけではなく、隣人のために、という発想が重要です。その視点を失うと事態の解決が遠のくことを私たちは再認識しました。

神戸女学院大学ではこれらのことを意識した教育を行ってきました。
本学は、学院永久標語「愛神愛隣」に基づき、「７つの力」を修得することを教育の目標としていることをディプロマポリシーで謳っています。ディプロマポリシーとは「卒業認定・学位授与の方針」であり、各大学が独自に定めているものです。
神戸女学院大学が求める「７つの力」は、愛と奉仕の精神、豊かな感受性、論理的思考力、コミュニケーション力、専門的知識と技能、創造力と企画力、主体的に学び続ける力です。これらの力こそが皆さんの人生を支え、隣人を助け、世界を救うものになると思います。皆さんが本学で培われた目には見えない貴重な財産です。
７つの力を備えた人格を養成することを目指す本学は、皆さんがそのような人格に成長

されたことを認め、本日学位を授与いたします。

もちろん、ここで成長が止まるわけではありません。人格の成長は常に途上にあることを認識しつつ、さらなる高みを目指すことは重要でしょう。これからの人生において、皆さんが得られた力を一層大きくして隣人のために用いてください。

自分が得た力がいつ、どこで、どのように必要とされるのか、まだわからないという方もおられるでしょう。けれどもその時は与えられます。

本学の創立者のひとりイライザ・タルカット先生はコネティカットの州立師範学校（現：中央コネティカット州立大学）卒業後は私立学校や公立学校で教師を務められましたが、母親が急に亡くなり幼い妹のお世話をするために職を辞されます。今はご家族に自分の力が必要だと思われたからでしょう。その後、今度は病気であった叔母の看病をされることにもなります。その間、南北戦争における逃亡奴隷の支援活動にも携わったといわれます。そして、タルカット先生はある時アメリカン・ボードの宣教師の講演を聴いたことで、新しい志をもち、明治の開国間もない日本にやってこられました。

日本の女子教育のためにご自分の力を用いて 1875 年に神戸女学院を創立され、5 年後には、依頼に応えて岡山や鳥取でキリスト教伝道に励まれたり、さらには京都にある看病婦学校（看護学校）で働かれたりするなど、実にさまざまなことをなさったのです。

タルカット先生は最初から日本で学校を創るとは夢にも思っておられなかったでしょう。けれども隣人のために自分の力を用いることを生涯続けられたのです。その時々で、自分に与えられたミッション（使命）を悟り、隣人のために行動された。このような精神をもつ人を本学は育み続けてきました。

皆さんがた一人一人にも力が発揮できる時と場所が用意されていると信じます。150 年を間近に迎える歴史と伝統のある神戸女学院大学の卒業生であることに誇りをもって歩み続けてください。それぞれに与えられた場があり、そこで存分にご活躍されることを楽しみにしています。

どうぞお元気で。何かあったら、いや、何も無くても、いつでも母校に帰ってきてください。今日の日を思い出してください。神戸女学院大学はこれからも皆さんを応援しつづけます。皆さんのうえに神様の祝福が豊かにありますようお祈りし、私のことばといたします。

以上